

育てた野菜 子ども食堂に

六郷高校生がプロジェクト



阿部さん（手前右）に育てたネギとシイタケを手渡す生徒

美郷町の六郷高校の生徒有志が、校内で野菜とシイタケを栽培し、地元福祉施設などに贈っている。「六高プロジェクト」と名付けた2023年度の地域貢献活動の一環。生徒は、栽培の楽しさと地域貢献の喜びを同時に感じている。

美郷町の子ども食堂「ほとり食堂」には、ネギ約40本とシイタケ約5斤を寄付した。昨年12月12日に校内で贈呈式を実施。野菜を育てている3年の武田聖さんは「先生からコツを教えてもらい楽しく栽培できた。おいしく食べてほしい」、シイタケを育てた2年の武勝里奈さんは「やりの

栽培と地域貢献に喜び

いを感じた。食べたみんなが幸せになってほしい」と話した。

ほとり食堂を運営する阿部大地さん(37)は「高校生が下の世代の子どもたちを思って寄付してくれることがうれしい。これを機に六郷高と関わりを持ちたい」と語った。

校内での栽培は、伊藤哲校長が「子どもたちにさまざまな機会を与えたい」との考えから生徒に呼びかけて始まった。エダマメやトマト、キュウリなどの野菜は敷地内の畑で、シイタケは菌床を使って校舎内で栽培している。

現在は生徒有志約20人が携わり、昼休みなどの空き時間に水やりや収穫にいそしんできた。これまで、ほとり食堂のほか周辺の複数の福祉施設に寄贈している。

六郷高は地域貢献活動に力を入れており、19年度には住民と一緒に学校運営するコミュニティスクール制度を導入。23年度は六高プロジェクトと銘打ち、小学生や特別支援学校生を対象に高校生が教えるプログラミング教室や、人工知能(AI)を福祉分野に応用する研究活動にも取り組んでいる。

(佐藤特弥)